

狂犬病

Rabies

狂犬病は、日本では撲滅された感染症ですが、オーストラリアを除き、欧米を含む世界の大陸で、現在も死亡患者が出ている感染症です。狂犬病の犬にかまれて感染することが多いので「犬」と名がついていますが、他の哺乳動物からも感染することがあります。アメリカではアライグマやコウモリ、ヨーロッパではキツネ、アフリカではジャッカルやマングースが有名です。これらの動物は感染により凶暴になり、ちょっとしたことで人をかみます。また、ネコや馬、牛なども原因になることがあります。狂犬病の犬は、流れるように多量のヨダレをたらし、物にかみつくと、無意味にうろろするなど独特の行動をします。日本人は犬やネコをみると無邪気になでようとしませんが、野犬や野生動物にはむやみに手を出さないようにしましょう。また、犬の前で急に逃げると追いかけてかみつくとありますので、急な動きをしないようにしましょう。



病原体

- 狂犬病ウイルス（ラブドウイルスの一種）

感染経路

- 感染動物に咬まれたり、傷口を舐められることによりウイルスが侵入します。狂犬病の最も大きな感染原因は犬ですが、キツネ、コウモリ、アライグマ、スカンク、ジャッカル、マングース、ネコなども原因になることがあります。

潜伏期間

- 9日～数年（通常20～60日程度）



症状

前駆期

2～10日間
発熱、頭痛、咽頭痛などの風邪に似た症状。
咬まれた部位の痒み、熱感などの異常感覚。



急性期

不安感、恐水症状、興奮性、麻痺、精神錯乱など。

2～7日後…

昏睡期

呼吸障害



予防法

1. 野生動物に手を出さない

狂犬病は世界のほとんどの国で流行しています。

野犬、野良猫、野生動物を、なでたり、手から直接エサをあげたりと手を出さないようにする。

狂犬病の犬は、流れるように多量のよだれを垂らし、物に噛みつく、無意味にうろつくなどの特徴があります。

2. 咬まれる前のワクチン接種

旅行先で動物に接触することが予想される場合は、渡航前に狂犬病ワクチンを接種をされることを望みます。

3. 咬まれた後の対応

狂犬病の疑いのある動物に咬まれたら、十分に水洗いします。

次に、咬まれた当日に病院で、傷口の治療を行い、狂犬病ワクチンと破傷風ワクチンを接種する必要があります。

